

No.8

こづかい制スタートの前に、まずは買い物体験

～遠足やお祭りなど、イベント時がチャンス

「こづかい制をスタートしようと思っても、上手くいくかどうか不安で踏み出せない」。そんな方は、買い物体験から始めてみてはいかがでしょうか。

我が家の場合、娘には、幼稚園遠足のおやつを自分で買わせてみることからスタート。一緒にスーパーに行き、お金とカゴを渡して一人で商品を選ばせました。どんどんお菓子をカゴに入れていき、決められた金額をあっという間に超えてしまいました。が、「これでは全部買えないね。先生とのお約束を守ることができないよね」と声かけをすると、「これは絶対に外せない、こっちをやめよう」などと言いながら、商品を選んでいきました。“買う物の優先順位を決めて買う”というお勉強がここでできたようなものです。何を買うのか決めたら、自分で支払い。おつりをもらって、マイバックに商品を入れたところで買い物は終了。一人でやり遂げて、自信に満ち溢れた娘の顔を今でも思い出します。

お祭りなどのイベントで、我が子の金銭感覚を探るという方法も。こづかい制をスタートしようかどうか悩んでいたあるお母さんは、神社のお祭りに一緒に行き、こづかいを渡して、我が子がどういうお金の使い方をするのか確認してみることにしました。

お子さんはまず、会場の奥までじっくり店を見て歩きました。そして、どの店に行くのかを決め、また入り口まで戻って順に買い物をしていったそうです。使い切れなかった分は貯金箱に入れました。その姿を見て、心配もふっとんだそうです。

一方、別のお子さんは、何を買うのか吟味することなく、目に入ったお店の商品をあれこれ購入し、あっという間にお金がなくなりました。その姿を見て、月に1度のこづかいならすぐに使い切って困ってしまうだろうと考え、週に1回ずつ渡すことから始めたそうです。

このように、まずは買い物体験がお勧め。子どもも自信がつき、親も我が子の金銭感覚を知ったうえでの指導のポイントをみつけることができそうです。

No.9

定額制のこづかいで身につく力

～制限するからこそ子どもは考える

買物体験に慣れてきたら、こづかい制を始めてみましょう。こづかいは、健全な金銭感覚を育てるための材料として捉え、子どもを見守り、時には声かけするなどして積極的にサポートしましょう。

先を見通したお金の使い方を学ばせたいなら、決まった日に決まった金額を渡す、定額制のこづかいがお勧め。渡す間隔は、慣れないうちは週に1回からスタートしても大丈夫。慣れてきたら半月に1回、さらに慣れてきたら月に1回というように一歩ずつ。段階を踏んで慣れさせる「スモールステップ」がコツです。

こづかいを渡し始めると、最初のうちはすぐに使い切ってしまうこともあります。「やっぱりうちの子は駄目なんだ」と、すぐにこづかい制をやめてしまうご家庭もあるのですが、もう少し続けてみましょう。なくなったからと言って、簡単に追加のこづかいを渡さないのがポイントです。そうすると、そのうちあきらめ、どうしたら良いか考えます。「お金がないなら我慢しよう」「お金を貯めてから買おう」「リサイクルショップに行ってみよう」というように、制限するからこそ子どもは考えるのです。簡単に手に入れられるようでは工夫もしません。お金がなくなれば誰かを頼ればいい、自己責任は取らなくても良いということを教えることにもつながります。

こづかいを欲しがらないお子さんもいらっしゃいますが、何でも手に入れられる環境ではありませんか。全てを手に入れることは難しく、我慢をしたり、優先順位をつけて買うことを教えるには機会を作ってあげること。同じ物でも値段が違うこと、安い時期がある、まとめ買いで安くすむなど、気づくこともいっぱいあるはずですよ。